

第1回群馬こども英語教育研究会 実施報告書

How do you talk with ?

あなたは誰と話しますか？



研究会内容

1. 基調講演 内山 武 先生
2. 事例発表 ロビン ケイ
3. 質疑応答、意見交換

第1回の群馬こども英語研究会を平成25年9月27日（金）に開催した。

本研究会は、これまで多くのこども達の英語教育を積極的に支援してきた本学院と幼稚園、保育園の経営者様、教育関係者及び保護者様との連携により、こども英語教育に関する情報共有や事例発表、交流を深めることを目的としたものである。

基調講演「これからの英語教育について」
前橋市国際交流協会 副会長 内山 武先生

①受験英語の指導の立場から

外国に行った時に、話したことは伝わっているが、聞き取りが全くできなかった。例えば「clever」「right」「light」どれも意味は分かる。しかし、現地でこの言葉は全く分からなかった。また、日本語の「いただきます」「ごちそうさま」に英語の訳はないのだ。そもそも文化が全く違う。その時、受験英語を指導・勉強しても、英語のニュアンスが全く身に付かないことが分かった。

②今日の教育現場

最近になって、大学入試にもリスニングが導入された。また、全国から100校を選抜する「スーパーグローバルハイスクール」という施策も文科省から発表され、本県では、太田高校と渋川女子高校が選抜されている。小学校での取り組みは、小学校の外国語活動を5年生から必修化させて、グローバル人材の育成に動き出した。各自治体により小学1年生から導入しているところもあるようだ。内容は、「音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標」としている。間違いなく、英語教育は低年齢化しているのである。ロビンが実践している楽しみながら学んでいることが、この外国語活動に繋がるものがあると思う。

本来は、こどもが新しいものを学ぶことは楽しいはずである。ところが、徐々に年齢を重ね

ると大学受験や日本の教育の構造が制約となり、自由がなくなり、楽しくなくなってしまう。ま



た、外国人に対して拒否反応を見せる子どももいる。そのような子どもには、外国人の目線や振る舞いは、異文化であるということを理解させなければいけない。

③英語教育の指導側の観点

では、教える側の講師はどうだろうか？前橋市教育委員会の知人に尋ねたところ、小学校の外国語活動において担任の先生の負担はかなりあるようだ。また、高校の授業においては、日本語一切禁止の授業で、授業についていけない生徒は1クラス中5名程度だそうだ。半分以上は聞き取りができていない状況で、授業の進行も大変らしい。講師の力量が必要と聞いた。ロビンの元では、20名の外国人講師にトレーニングをしていると聞く。これは非常に重要なことで、教育委員会を含め、今後益々、質の高い外国人講師が求められるのは間違いない。

～プロフィール～

学歴 東北大学文学部英文学科卒業
職歴 県立榛名高校
県立伊勢崎東高校（現県立伊勢崎高校）
県立前橋高校 11年
県立中央高校（現中央中等高校）14年
英語教師を歴任
前橋市国際交流協会の外国人向け日本語教育
現在 前橋市国際交流協会 副会長

園における英語教育の活用事例（ロビン・ケイ）

多くの幼稚園や保育園にて15年間、幼児英語教育に携わってきた。園により英語導入の目的は異なるが、私の行っている英語は楽しんで学ぶものである。1クラス30分を基本に、ロールプレイを通して、表現やアクティビティを動作と発話を取り入れて学んでいる。外国人との触れ合いに慣れるため、毎回の授業で自己紹介、あいさつと握手をするようにしている。また、子どもを飽きさせない工夫もして、フラッシュカードのめくり方のスピード感や発話の回数とスピードも子どもを集中させるようにしている。



しょうび幼稚園では、毎回の授業で園長先生にレッスンレポートを提出している。これは園長先生が各クラスの指導状況を把握したいために作成された。

また、各クラスの日本人先生が予習と復習を行っているので、英語の時間の指導の効果は倍増されている。

年度末に授業参観日を年中と年長を対象に行っている。父兄に普段の様子を見学してもらい子どもの成長の様子を直に見てもらうのが目的である。

トキワ保育園では、子育て支援事業の一環で、母親向け英会話や英語の歌、ダンスを行っている。楽しみながら英語に触れてもらうのが目的である。

あさひ幼稚園では英語劇を毎年度末に実施している。日本の物語を本学院で英語訳し、3か月から4か月かけて、練習し父兄に披露する。

～プロフィール～

国籍 カナダ、イギリス
学歴 マギル大学 文学士号取得
トリニティカレッジロンドン 修了
TESOL（英語教師資格証）取得
MAT 研修修了、デビットポール研修修了
TEMI 研修修了
言語 英語、フランス語

出席者のコメント

Q.グローバル社会と言われているが、県内企業の普及はどのくらいなのか？

A.県内でもサンデンやミツバ、NSKなどのグローバル企業がある。これらの企業では既に英語が必須であり、海外赴任する社員が多くいる。重要なのは五輪のスピーチでもあったように、自分の言いたいことを持っているかどうかである。

Q.今幼稚園で指導いただいている内容は、小学校の指導要領に沿った内容なのか？

A.要領にある「音声を中心」「体験的に理解」「コミュニケーション」は外国人と楽しみながら実践している内容と一致している。

- ・年中児に月2回、楽しく親しみを持って英語を指導してもらっている。保護者も英語に力を入れておくことをよく耳にする。本日の研究会で、思ったよりも国際化が進んでいるのだと感じた。
- ・私は受験英語で育ってきた。反面教師的に、子どもには自然な環境で英語を学び育てたいと願っている。
- ・1,2歳児を扱う我が保育園では、学習することよりも楽しく異文化交流することを目的として英語を導入している。何となく保育園で関わった英語をそのまま継続してくれると嬉しい。
- ・早期語学教育に異論を唱える学者もいるが、問題は小中高でしっかりと英語教育ができていないのが問題ではないかと思う。
- ・脳科学の分野でも、幼児の語学教育については注目されている。月に12回母国語でない言語に触れると母国語とほぼ同じ位の語学力を身に付くと言っている。

次回は、2月上旬の予定。